

平成29年5月24日

平成29年度
全国メディカルコントロール協議会連絡会(第1回)

基調講演

「救急医療提供体制を構築する場」としての
メディカルコントロール協議会

全国MC協議会連絡会
会長 行岡哲男

全国メディカルコントロール協議会連絡会「開催要綱」

平成27年4月：現行版

MC協議会の目的：

「救急救命士を含む救急隊員等が行う応急処置等の質を医学的観点から保障すること」、「今後、救急医療提供体制を構築する場としての活用も期待されている」

各地域におけるMC体制やMC協議会の取組は様々である

消防庁および厚生労働省は、関係機関がMC体制に関する課題を整理し、自己評価および **他MC協議会から学ぶ** ことができるよう
情報共有及び提言の場を設ける

救急医療に係る学会、団体、消防機関、医療機関等により構成される
全国MC協議会連絡会を開催する。

全国MC協議会連絡会では、「救急医療提供体制を構築する場」という表現を開催要綱に盛り込み、多様な関連団体に参画を求めた。

その理由は？

MC協議会が
担う役割・活動

病院前での
応急処置等
の質保障

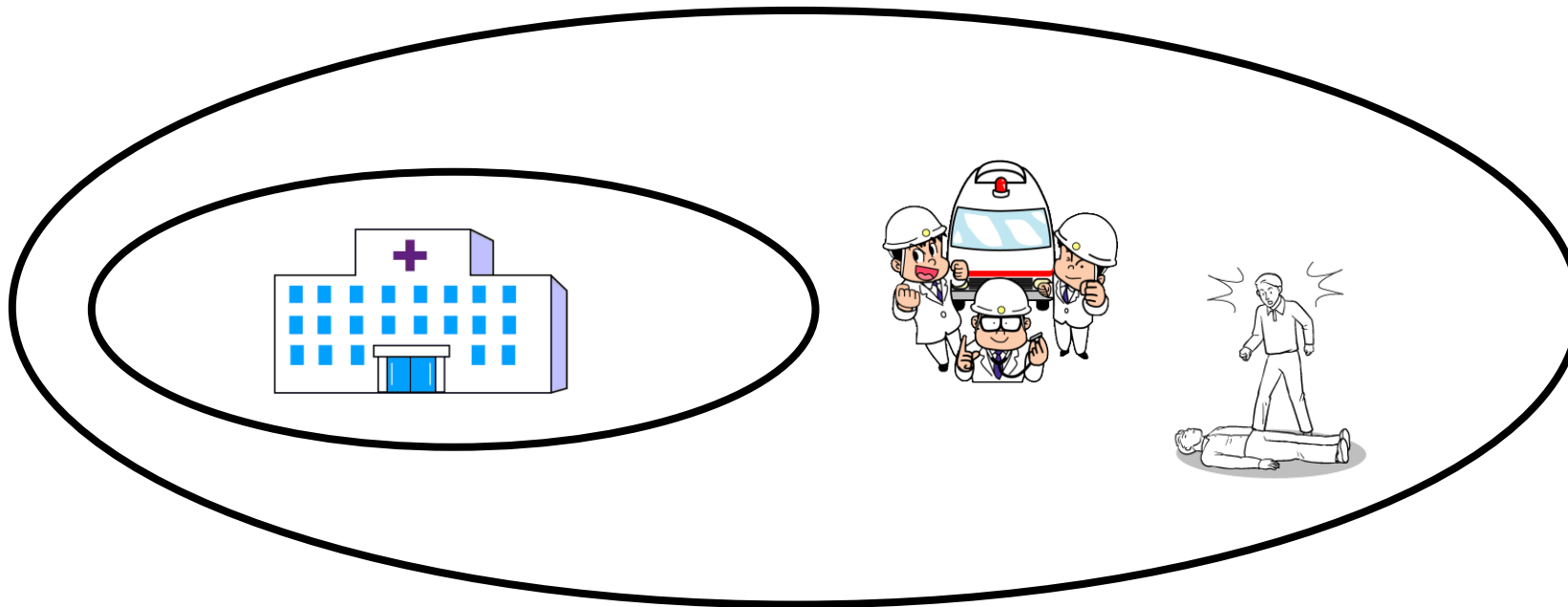
救急業務
の
高度化

救急医療提供体制
の
構築

MC協議会の役割や活動内容をより広げる、
社会的なニーズが存在するからである。

MCは、救急現場での応急処置等の
質の医学的保障を目指すこととして始まる。

従来は、医療者の行う医行為
は病院内で行うのが基本で
あった。



医療の場が、病院から地域へと広がる。

救急救命士制度により、医行為が救急の現場(=地域)で
実施されるようになる。

医療はシステム(チーム医療)
として展開されるようになる。

医療の場が、病院から地域へと広がる。

地域(=人々の日々の生活の場)へと
医療者が行う医行為が広がる。

医行為の実施やその質保障だけでなく、
これを支えるシステムとしての地域における
救急医療体制を組上げ、
これを支える体制が必要となる。

**「地域」における消防機関、医療機関、
さらに福祉・健康に関わる機関・団体の
「連携」がMC体制やその活動の核心をなす。**

21世紀前半の高齢化は、

多臓器・多疾患

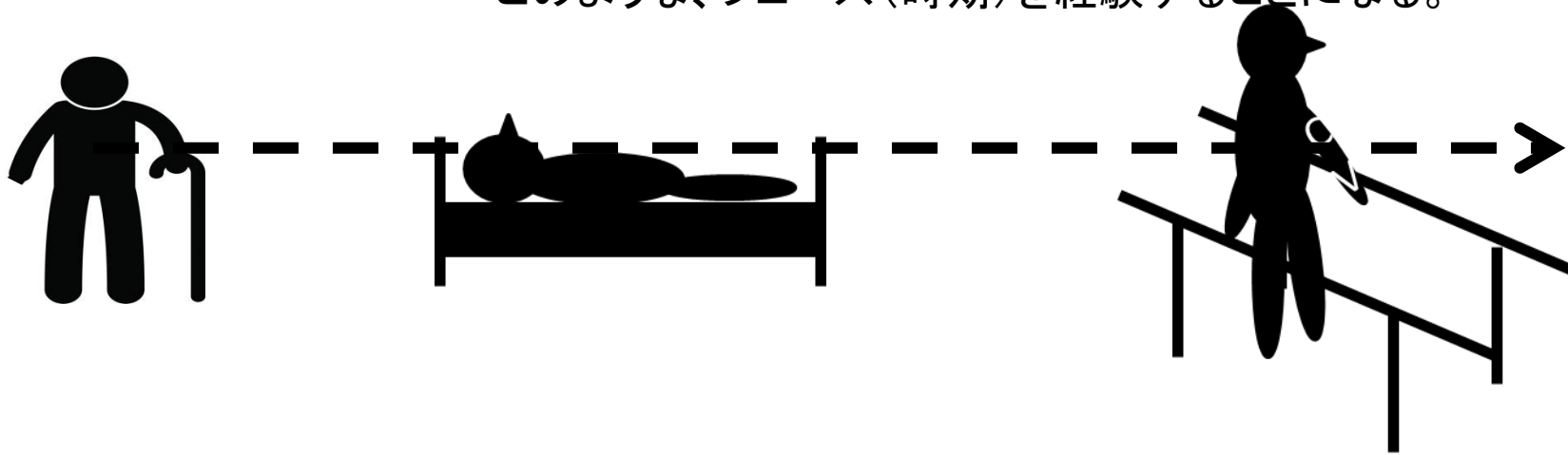
患者増につながる。

多臓器・多疾患の患者は、臓器・病気別の診療もさることながら、一人の患者としてその病気のフェーズ（時期）に対応した診療が必要となる。

多臓器・多疾患の患者

高度急性期 ~ 急性期 ~ 回復期 ~ 慢性期

このような、フェーズ(時期)を経験することになる。



これをPatient Journey と表現すれば、
患者としてのjourneyを支える
施設や病床間の連携が求められる。

MCが関わる
「連携」領域

病院前を含み
組織・施設（病床）間
の連携が必要

高度急性期

～

急性期

～

回復期

～

慢性期

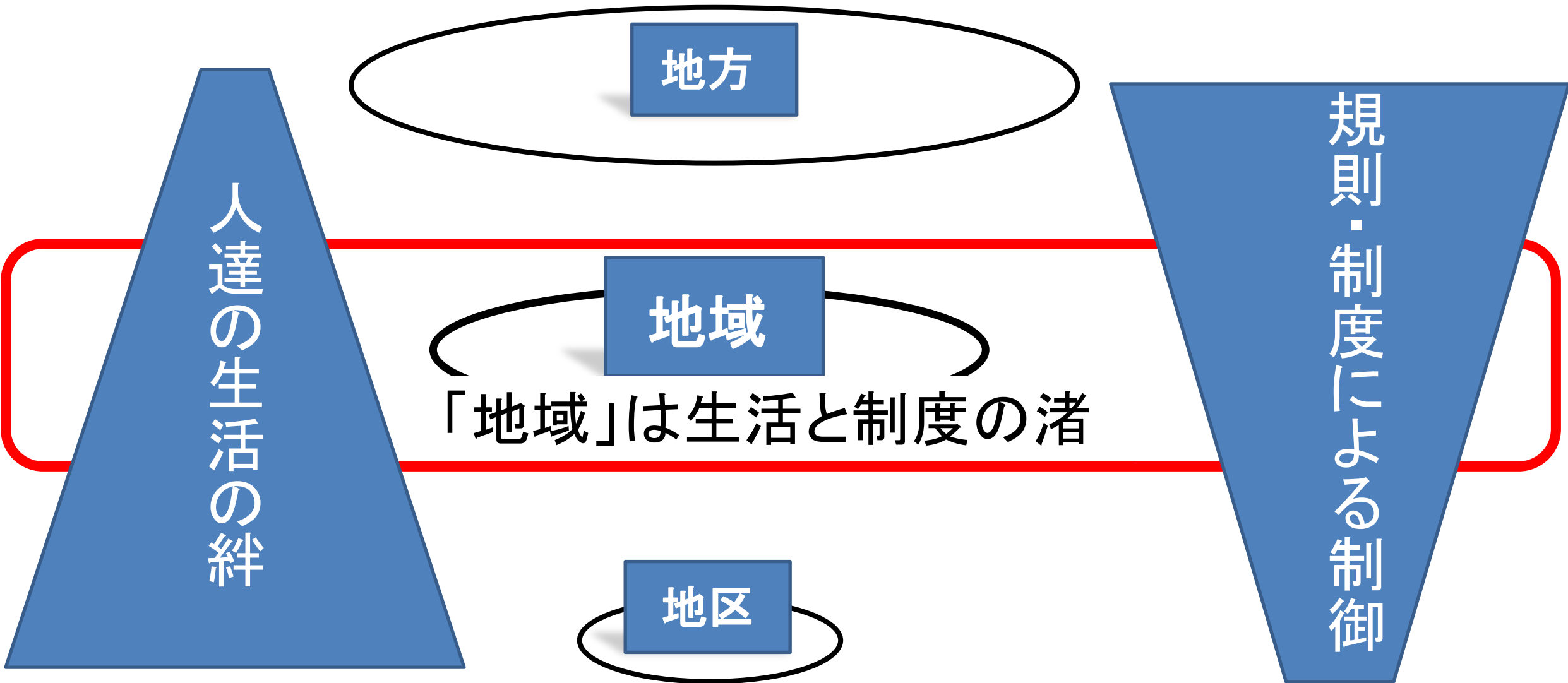
高度急性期病床

急性期病床

回復期病床

慢性期病床

21世紀前半の
我国の医療体制



人達の生活の絆

「地域」は生活と制度の渚

地域

規則・制度による制御

21世紀の医療は、
この「地域」という場で
組上げられる
救急医療は
その「先駆け」である。